



柳茶隨筆

十六号

15  
413



東野栗原先生著

# 柳庵隨筆

製本肆

崇文堂

中井新三郎

中井文庫

門信  
動 4/13  
卷

卷

柳菴隨筆序

卷

昔者。洪景盧著容齋隨筆。稗官小說。悉皆可以備考證。則隨筆之述。亦不可熄也。而有論經義以疏事理者。詳事物以闡徵古者。或有詭怪隱僻。更

涉夷堅者。孟浪洋。說屬齊  
諧者。是皆難作者之志焉。然  
亦學問之淺深。識度之雅俗。  
昭然而不可掩也。夫隨筆之  
述難矣哉。柙庵源信充字  
伯任。其先甲斐國源氏。數世

事鈴鐺。信充祖父朋英。字子  
俊。少好學。長與一時知名之  
士周旋。往來友善。其學子專  
勉經術。未嘗臻乎唐以六經  
謂稗友小說。信充幼承祖訓。  
讀誦日數百千云。其十二家

也。父和恒共來見余。出蘇陸  
之文讀之。頗通其義。余奇之。  
益勉強之。尔後讀誦不懈。十  
九著上聖國史稿七十卷。余  
聞之於堅田紀公。請祭酒林公。  
貸昌平學。取御本。大有所證。

發。今年廿六。述斯隨筆。余  
披讀之。其辨析事理。蓋似  
顧炎武趙翼。抑亦論經義以  
備徵古之類也。未嘗涉夷堅腐  
諧之比。其論事定理者。後年  
蓋有改之。今姑亦存一通之誼。

而已。便斯隨筆。亦不可熄也。  
而知信充者。莫先於余。是余  
冠一言於卷端。而不拒之謂也。  
文政己卯首夏廿八日伊勢守堀田  
一知書於金精館東窓



今日より三年とて少少豫方のむらふやありきん。柳菴の  
ありしとてあつてまゝとてなり。何と社のおこころりか  
ぬいけふ。余もこれなり。吾等の遠きことけしとて  
ふきや。けしとて春秋ふとてたがし。きの道とてむ  
すふ。其名夫のふふとてなり。余はたふら  
人なり。すれむあふとてなり。吾等ふとて  
ち十年あふの遠乃とてなり。いふやふのち  
たりきてとてなり。おこしとてなり。おこしとてなり。  
言いおしとてなり。まんとてなり。おこしとてなり。  
學者人の師とてありきん。おこしとてなり。おこしとてなり。







- ⑦古畫
- ⑧古刻本
- ⑨太子傳
- ⑩宋板書

又  
如  
記  
筆  
道

四天王寺三繩執行  
臺所

柳菴隨筆初編

上卷 源信光 著

①西土乃書籍寂先本朝入傳來しるもの、論語千字文、  
是百濟照古王の貢献しる所なり。古事記云、此物、  
朝  
鮮金思菴、歷代史略、  
と云ふ、照古王、延喜八年丙午正月、立建安十九年甲午九月、薨、  
濟蓋婁王子、延喜八年丙午正月、立建安十九年甲午九月、薨、  
在位四十八年とあり、我表時、百古王の元年、本朝成務  
天皇二十五年入高麗、と此建安十九年、神功皇后十四年  
とあり、古事記云、所謂應神十六年、先づの七十餘年  
あり、又按、百古王、母弟、古尔王とあり、魏青龍二年  
甲寅、百古王、丙午、正月、薨、在位五十二年、是應神十六  
年、その二十一年、入高麗、是、入高麗、照古王、古尔王の  
あり、即我應神天皇十六年、入高麗、晋武帝大康六年、



命錄

祐と入るは、刻するは、その乃板今尚存、東都書肆、  
頃原在茂、岳衛收藏せり、近頃市野光度、板勘、覆刻  
と、明應板を、周防の平武道と入るの刻する、所なり、その板武  
八、予が古刻書、跋上詳なり、又按、清の錢曾、讀書敏求記  
云、得高麗、新本、柯晏論語集解、此書、乃遼海道蕭公諱應宮、監  
軍朝、解時、得甲午、初、表、予以重價、購之、于公、之仍、孫、不、嘗、獲  
一、珍、珠、也、葉、畫、奇、如、六、朝、初、唐、人、隸、書、碑、版、居、然、東、國、舊  
所、行、間、所、注、字、中、華、罕、有、識、之、者、詢、為、書、庫、中、奇、本、未、二、行、云、  
正、平、是、朝、解、何、時、年、号、俟、續、考、之、と、あり、是、正、平、板、論、語、の、美  
事、よ、く、錢、曾、の、鑒、識、  
千字文ハ先儒疑以為、周興嗣、  
應神の朝、よ、ま、事、を、と、え、ず、是、よ、う、く、前、統、後、守、源、君、美、朝  
臣、ハ、王、仁、が、献、り、一、卷、と、用、え、り、凡、將、錄、大、甲、益、意、就、章  
等、の、小、學、乃、書、を、と、り、を、刊、傳、ハ、あ、や、り、し、よ、や、古、事、記

を撰ぶ、一、と、ハ、千字文、付、く、と、後、の、世、を、事、ふ、と、一、ハ、  
彼、王、仁、が、来、り、時、論、語、并、小、學、書、一、卷、を、も、り、一、と、用、え、  
し、を、今、世、入、行、く、所、ふ、り、く、その、献、り、小、學、書、ハ、即、今  
世、千、字、文、乃、事、なり、と、心得、あ、や、り、く、斯、ハ、志、を、勢、を、な、る  
也、一、同、文、通、考、と、い、く、本、居、齋、庵、ハ、李、羅、が、集、註、千、字、文  
の、序、ハ、晉、武、帝、時、大、吏、鍾、繇、是、を、造、り、と、い、く、入、り、く、晋  
武、帝、と、い、く、應、神、天、皇、を、同、時、入、當、化、ハ、此、時、と、い、く、千、字、文  
と、い、く、ハ、一、の、世、を、未、世、入、弘、く、其、後、次、弟、乱、撫、ひ、く、續  
玉、と、い、り、し、を、遙、乃、後、梁、武、帝、が、時、入、玉、と、い、く、と、顔、を、次、く、全

くのちりぬまは、世に廣く、百濟ありて、傳くは、  
 人、その後の、と、なるを、古事記付、  
 碑、難考、曰、淳化法帖、漢章帝書、今の千字文の内を  
 語、た、れ、は、と、乃、文、興、嗣、ふ、出、り、と、り、と、り、  
 信、元、が、管、見、ふ、ハ、章、帝、書、八、十、四、字、淳化閣帖第一、漢章帝書、  
衣宿列張、盈晨、海賦、河漢、  
鱗羽、翔、龍、師、大、帝、鳥、官、人、皇、始、制、文、字、乃、服、衣、選、途、壹、弊、周、談、  
彼、短、無、詩、已、長、尺、壁、非、尚、寸、陰、是、競、孝、當、竭、力、忠、興、温、若、思、慎、  
終、宜、令、學、優、登、仕、振、職、後、政、都、邑、二、京、背、此、面、治、淳、淵、既、集、墳、  
典、亦、乃、八、十、四、字、を、り、日、知、録、入、百、餘、字、と、り、ハ、何、の、帖、り、出、  
猶、な、り、ぬ、べ、し、  
 左、觀、餘、論、人、此、書、非、章、帝、然、亦、亦、代、人、作、但、錄、  
 書、者、集、成、千、字、中、語、耳、歐、陽、公、疑、以、為、漢、時、學、書、者、多、為、此、語、

云、く、ぞ、り、得、り、と、り、と、り、歐陽公、漢時、學書者、多、為、此、語、と  
 一、つ、る、も、衣、宿、列、張、の、給、ハ、周、興、嗣、り、次、韻、本、ふ、み、く、義、之、  
 千、字、文、ふ、と、見、く、と、周、興、嗣、り、次、韻、と、り、事、ハ、南、史、上、帝、以、  
 興、嗣、為、工、擢、拜、負、外、教、騎、侍、郎、進、直、文、德、壽、光、者、改、武、帝、以、三、  
 橋、舊、宅、為、光、宅、寺、敕、興、嗣、與、陸、倕、各、製、寺、碑、及、成、俱、奏、以、興、嗣、  
 所、製、自、題、銅、表、銘、柵、碑、碣、檄、魏、文、次、韻、王、羲、之、書、千、字、並、使、興、  
 嗣、為、文、每、奏、帝、稱、善、賜、金、帛、南史、周、興、嗣、傳、と、見、く、と、元、王、羲、之、  
 書、と、り、所、乃、千、字、文、を、次、韻、傳、し、と、り、今、の、本、と、り、  
 さい、と、本、漢、の、時、と、り、と、り、と、り、  
 四

興嗣が仙ふとろふあると其乱ると本らると事必知と  
 一とふとふ義之書とあると是と義之仙と所ふと  
 と志をへと義と本は、鬱岡齋帖中ふ載するふとれ千  
 文たふと一、鬱岡齋墨妙弟四、晋王羲之書、魏鍾繇千字文、魏  
 大尉鍾繇千字文、右軍將軍、王羲之奉勅書、二  
 儀日月雲露嚴霜夫貞婦絮君聖臣良尊卑舊別禮義矜莊存  
 而相欣離感悲傷岫疏藝機解此勅豈毀食飯研嘍俳佃負潔  
 澹葉櫻稅稼穡困唐虞禪讓率賓歸德飛龍在田畜書見已迄  
 多世秋毫帝御理誰適委醫渠荷射牒施修薪孔立升堂墳典  
 之盛季林栢桐新孰表正學優卿建紙墨左令詳觀藉甚母嫡  
 後稽仁連比堅顛神境特睦以受伯叔布絳九疲移爵取宇宙  
 玄黃歲盈餘吳列宿調陽岷崗珠劍垂蒙瞻身、昆聆貽工指  
 枕故厥貢嶽云百雉估刺畫條丹青漢宮稱職畫忠景行名傳  
 秉直詩讚白駒羣賢轉植魏假密踐途惟廉恃拱平章男女刑  
 端谷聲虛積容止温清言辭宜政慎增情性恬糖惟房悅豫接

酒墟叔待中續御再拜並管旋璣暉朗魄曜懼驟的歷陳根翰  
 淺囊具象顧契獲捕葦袖早異享辱墻續徐守真驚寫傍啓隱  
 千輩能勿父牧用紫翫殆批把駭躍起驟且顛執夕周豈嚴使  
 維賴彼田慕極振將家更土蹄韓煥寓目昼眠光少敷虔呂秩  
 和同殿丙公威市寐綸巧佳俗利雨疏數亭杳冥吉初隸濠浴  
 駢殿內岱敢達疑皆毛簡荅於俠陪殿垢冠高茲阮天哺戩愚  
 秋地冬馳麗相惠衣裳水鳥本弊頰勒碑實礪礪夜封戶僻藍  
 笋短步孤陋嘉猷持物心動甲帳對楹樓觀磐蓄吹笙鼓瑟伊  
 尹阿衡鷹門綿邈史魚孟軻者躬銀素垣箱識誠迴傾丁晉屬  
 月楚韋即輔嗣驢悚石碣沙漠宜威我尋未古寡沈黜道遙讀  
 易口飲論車榮頌盜宰手賊釋鮎拓絳輝寵南寧納駕肥側陸  
 似息履薄改環催造次歲規甘棠去唱上奉諸姑始匪虧外隨  
 都邑寸陰終時過所定來蓋得羔羊淡師鱗潛鴻大任樹習寶  
 與當禍空念絲霞濼剋日作事是聽福緣日登入磨分投廉退  
 憲自肆懷縵銘翠遵州約晚法殿菓珍難量鳳若竟右既集如  
 初亦聚予民興安洽極化無不及充四塞宗廟效靈遐荒竭力  
 明王壹舉八方仰則誅斬非道勸賞獎陟有功必羨亡善可逐  
 藏足為奈結乃愛首被場萊罪代萬海賊騰京昔僻芒推面字

萃

水清逢阪

夏陶西問庭梨伏據戎仙羗階蓋府身縣後序軍國精志引要  
文武斯妙五經星辰下照渭殊流河川交映富貴猶欲短長從  
命賤思並輕好謙敬能知任運官祿靜覽遊鷗居謝彼畏賜適  
康燭祭煌祀宋弦康給姿淑每嘖義夫祐綉宜郁恬等聞鉤誦  
芥出制體歡鞠養基揖益兕奄弗切滿槐兩浮鐘舍羅思遣親  
張純源晦領俯束帶橫扶節重微且臨何濟合曲宅早澄深忘  
慶誤廣弁趙霜近耻其勉累奏志臨鑑象辨并座信起收給資  
報忘年孰扇琴譙觴蘭草巨木筆懸鬪暑徃寒重永載成閩人  
安業承匡園池城想獨釣茂松逸意曠氣東畢野畝勞色農食  
黍馨火寔生飢膳宵摩王英飽才器談識謹弱譽榮紡綺妾零  
士惶寂敷歌詠帝俊任會朝審察法刑鳳翔律樂感禽獸元友  
弟父慈子孝篤訓雅操庶幾庸禹通九郡沛滅秦羽傳說佐殷  
洞庭遠遠謂語助者焉哉乎也秘府乃瓢印晉府圖書之印羣  
玉中秘之印也其末小觀此帖者必有宋板大明律之疑  
不知閣帖之首已有章草千文雖未必是漢章帝書亦可證千  
文不始於梁人矣米元章書家中韓堂妄許可者亦稱此帖筆  
力即契定為右軍書臨池之二得不可移重奉為摹範耶換庵老  
人書必みえり又江村消夏錄云此帖在載く曰紙本高八

道題増

才長九尺三寸九七接計一百十二行あり今鬱同齊帖二百  
七行あり消夏錄又云右行書二儀日月雲露嚴霜起字大如  
錢至末尾減秦及為哉乎也等字倍大渾田邁勁筆力雄偉前  
有雙龍奎宣和鈐印秘府瓢印內教珍玩晉府書画之印希世  
之寶黃陵隔水上有御書瓢印晉國奎章項氏收藏諸印張氏  
珍玩楊氏家藏後有明昌寶玩秋壑圖書鈐記有宣和政和  
奎歐陽玄印楊士奇印單依有羣玉中秘明昌御覽平海軍節  
度使之印吳俊仲傑小印鬱同齊曾奉之入石とあり高士奇  
かみりしる本即之乃存原書とみえり此帖も鍾録に本  
行數く寸尺乃參差勢おへりかみりしる也  
小河淡海鹹の字おくして周興嗣の本とみえり  
が章草千文を以て漢時千文ありしとて證しはたが  
るる也且今の本と章草千文をハ全く同くく即  
全篇周興嗣が次韻と本れり全篇周興嗣と出たりと人





御蹟を考へんもの、憲法をとて、何をさすべし、を湯権

現ふ籠らまき御書、走湯山縁起入鈔出さるる、云、吾国佛法知

流之縁地、濟生利物之勝境也、雖然國

奮神難改、俗情傲慢、就中、國臣守屋、悖逆盈胸、尤回抑掣、神道

合カ、降邪徒、伏弘俗、遂利生、素懐、果弘通、奉誓、云々、此時

勅諭あり、御諱を東明山廣大田滿善薩と号し、また、

是即走湯権現乃御事なり、之、

善光寺如来と従復の御書、法隆寺入あり、と、書籍に見

え、ハ、存覺報恩記、搦囊抄など

ふみえ、これ、ふふく、此外入太子乃御書と、入をあら、ありや

と、次法隆寺金堂坐薬師像後光銘、太子よやとねま、

東宮聖王大命とみえ、此、史官の筆を、

古天皇十五年入仙るや、此、銘の字跡を、

邊を邊入仙る、

此、銘の字跡を、

邊を邊入仙る、

此、銘の字跡を、

邊を邊入仙る、

此、銘の字跡を、

邊を邊入仙る、

此、銘の字跡を、

邊を邊入仙る、

此、銘の字跡を、

邊を邊入仙る、

此、銘の字跡を、

邊を邊入仙る、

此、銘の字跡を、



③法隆寺寶物ノ賢聖瓢とつるるあり孔子と榮啓期とを  
 彫るればかくい名ばまておをりてんておをへハ聖像の  
 もとにまよひ異ふとてくごうくはこれ西土に傳ふと乃ハ  
 これ唐人の筆を本とて本朝よほくする所ハ隋の代よりあ  
 るにやるかよ先づんまこれなり金くつて聖像考一編著と  
 つま長々いとも〜〜つ

孔夫子  
 榮啓期

④學校釋奠の事従く史書のみえられぬ武智磨公の翼賛  
 功績を續紀に載せざる何事とや傳曰伏寶三年七月従為  
 大學頭公屢入學官聚集儒生吟詠詩書披玩禮易揄揚學校  
 訓導子衿文學之徒各勤其業和銅元年三月遷圖書頭兼侍  
 從公朝侍内裏撰候論言爰以其中檢校圖書經籍先後壬申  
 年亂離已來官書或卷軸零落或部帙欠少公爰奏請尋訪民  
 間寫取満足由是官書髣髴得備とあり是公の功績也  
 是公ありて後斯道地不墜を以て今日に至るを得り

信物

吉備

泥罽

入部

然るに文學乃公のから盛徳なりとて其を人稀なり  
 然るに文學乃公のから盛徳なりとて其を人稀なり  
 大凡是を修飾し初釋奠乃儀ハ定まりと  
 備公乃傳よ  
 今の世に釋奠固むと三通けり  
 大寶の遺軌を想像とへて管家文章  
 仁和二年正月十  
 六月任讚岐守四月朔釋奠  
 泥罽簞蕭疎禮用迷と傳  
 文庫と釋菜あり事と  
 仁和名あり下文的  
 のありて邊去遠境とて文學の獲り所なり



兩廢于今書冊貼連瓦王武藏守恭時が遺書を承え、東鑑貞永  
 院之印者、偶残とみえり、元年十二 善信が文庫を構へ、東鑑、承元二年正月乃條 或ハ帳簿の類、  
 或ハ券疏の類といへども、愛護の意ハれれ、あるを  
 ども、あるはう勢、或ハ災ふかると言、言 復辭り傳りぬ、  
 贈し、さ 越後守實時が贈へし書と、今 今も、  
 是傳り、是 實時が子顯時との子貞顯父子と世相継ぐ、  
 學を好むが故なるを、一 抄金澤の文庫乃事ハ、元亨二年  
稱名寺住僧 池澤が、結界 化法面を、ころ 入、文庫 二、經藏 一  
 つあり、古 古鈔本、法然 語燈録乃跋入、建武四年七月 得了

慧上人所集語燈録草本十八卷、後 其初冬、至 臘月廿五日、與  
 同門宿老四五輩、治定 之畢、更 寫一本、藏 武州金澤稱名寺文  
 庫者也、と 空花集入、觀 金澤義書而化と、七 言律あり、  
鎌倉 大草紙入、武州 金澤の學校ハ、北條 九代乃、鑿 昌の  
ひ 學問あり、舊 跡あり、是 を、今 今度、か の文庫を、再 再建  
て 種々乃書籍を入置と、み え、幕 幕京集、二 月、釋 義令  
澤 文庫、く 行、く 梅花、無 盡藏、上 ハ、文 文明龍  
集 丙午十有八年、小 春廿有七、己 亥、進 入、金 澤稱名律寺と、  
北條 九代記入、越 後守顯時、稱 名寺ノ内ニ、文 文庫ヲ立テ、

戸部 藤 泰

和漢ノ群書ヲ集メ、之ヲシ、或ハ鎌倉志ノ貞顯の建  
所ナシ、其ノ古キ書ハ、何の時入建シ、其ノ證ハ此  
群書治要ノ、越後守實時の跋あり、其ノ首尾ハ金澤  
文庫乃印あり、ハ、實時ヲ建シ、所ナシ、其ノ古キ書ハ、  
群書 治要  
第十五跋ハ、此書一部、先年於京都書寫了、而當卷、訛右京兆  
戎範加點了、爰去文永七年十二月、當卷已下少ク燒失了、然  
間以康有之、重書寫點校了、康有本者、以予之燒失了、所  
書寫也、于時建治二年八月廿五日、越前刺史押とあり、評定  
傳等乃書を按じ、此年十月廿三日、於六浦別業卒と  
ハ、八月廿五日、ハ金澤あり、其ノ同書第十七跋ハ、建治  
元年六月二日、以勿勘本、書寫點校終切、此書一部、先年  
後藤壹川爲大書在、後之、予依令誦、所書寫下也、而於當卷  
者、假藤三品、戎範之手、令加點了、爰去文永七年極月、回祿成  
華化、灰燼、今存者、炎上以前、以予本勿勘令書寫之間、還又

冬 振

以竹本、重令書寫者也、越前刺史平とあり、其乃年五月、依所  
勞籠居六浦と、評定傳ハ、みえ、此跋ハ、金澤あり、書  
所ナシ、其ノ古キ書ハ、何の時入建シ、其ノ證ハ此  
群書治要ノ、越後守實時の跋あり、其ノ首尾ハ金澤  
文庫乃印あり、ハ、實時ヲ建シ、所ナシ、其ノ古キ書ハ、  
群書 治要  
第十五跋ハ、此書一部、先年於京都書寫了、而當卷、訛右京兆  
戎範加點了、爰去文永七年十二月、當卷已下少ク燒失了、然  
間以康有之、重書寫點校了、康有本者、以予之燒失了、所  
書寫也、于時建治二年八月廿五日、越前刺史押とあり、評定  
傳等乃書を按じ、此年十月廿三日、於六浦別業卒と  
ハ、八月廿五日、ハ金澤あり、其ノ同書第十七跋ハ、建治  
元年六月二日、以勿勘本、書寫點校終切、此書一部、先年  
後藤壹川爲大書在、後之、予依令誦、所書寫下也、而於當卷  
者、假藤三品、戎範之手、令加點了、爰去文永七年極月、回祿成  
華化、灰燼、今存者、炎上以前、以予本勿勘令書寫之間、還又

小西

評

氏康

禮義宋板二十卷、十七冊、論語正義宋板十卷、左傳集解鈔二十卷、

太平御覽宋板百十四冊、世說宋板三冊、外臺秘要宋板二十四冊、楊

氏家藏方宋板七冊、續易同方金澤本乃摹本、六卷、古平聖惠方宋板、金澤本乃

摹本、一百卷、四十六冊、續日本紀、法曹類林卷三卷、續本朝文粹、

卷二十二卷、清辨眼抄金澤本一冊、東鑑應永十一年甲申八月廿五日、以金澤文

庫御本書、白氏文集第九段入、唯寂房書寫之、金澤文庫本、與

三回點了、右金古板、病源假論元板、宋景文集、文選不あぶと

ふれども、さびきやハ、金澤文庫より後入ハ學校乃ぶとくちり

わらせ見せしり、抄古毎國ハ學校ありしと、七經孟子考文

ちとみつへども、國學の事ハ、令人も思へば、いふよりあはれ

讚波別廟ハ、菅公乃建たしと、尾張の別廟ハ、大江匡衡

ハ、建立しり所と聞知、江吏部集是れ國守の私議しり、

公乃定とい聞之と、我れ其跡よりたをくわらうと、是利學

校はとも、今よと國ハあり、其史書よとえ、ハ、鎌倉大系紙

極奔和尚家法和點を、人出らむと、いふ系劍何の時

と、人事定らむと、或ハ小塾堂の家塾と、いふ、或ハ上古國

學の遺制と、いふ、或ハ足利義兼乃建立と、いふ、其ハ明證ナ、姑

是を楯く、本朝通鑑ハ、憲實の状を引く云、本朝州學存者、

有數焉、以儒為之主、野之學為最と云々、夫、永享十一年  
己未、閏正月初吉、前房州刺史、藤原憲實と記さるる人、  
學校、孔子見敬器圖あり、其裏書、永享十一年、閏正月、寄  
進、足利學校進足利學校と云々、  
事、同、在大、大、草紙、入、應仁元年、長尾景久が沙汰あり、政所  
ら、今乃、所、入、移、建、立、し、ま、う、近代乃、同、心、ハ、快、元、と、禪  
僧、方、ち、と、入、に、し、れ、は、乃、乃、學校、ハ、古、の、學校、の、地、入、移、る、と  
云、る、へ、同、書、ハ、此、足、利、の、學校、ハ、上、代、兼、和、六、年、上、野、堂、  
上、野、の、圓、司、を、り、し、ま、う、建、立、の、所、同、九、年、管、隆、具、ま、り、ま、り

下、向、乃、時、此、所、ハ、學、問、所、を、と、て、り、ふ、と、見、る、と、云、る、ハ、文、德  
實、祿、を、開、と、し、ま、兼、和、六、年、春、正、月、遂、揖、詔、除、為、廢、人、配、院、隱  
岐、國、と、あ、ま、バ、上、野、國、司、と、り、ま、り、ハ、謀、を、し、り、九、年、夏、六、月、  
為、陸、奥、大、守、と、あ、と、し、ま、此、所、ハ、學、校、を、し、り、ま、り、と、因、れ、東  
海、談、人、分、類、年、代、記、を、引、く、義、兼、の、建、立、と、し、り、尊、氏、聖、朝、ハ、  
祈、念、と、し、ま、り、續本朝通鑑ハ、此、事、ハ、み、ま、り、し、り、疑、也、桂、菴  
和、尚、が、説、ハ、日、本、傳、足、利、ハ、學、校、學、徒、負、笈、之、地、也、と、見、る、後  
阿、寺、四、記、ハ、學、校、興、隆、ハ、馬、頭、基、氏、奉、行、之、と、い、ハ、貞、和、の、頃  
と、い、ハ、所、見、あり、と、宗、長、東、路、乃、は、と、羅、山、文、集、鶴、峯、文、集、日、光



一なり、その羊ハ、正しく小幡氏の祖なりといひ源と清ハ、羊  
養相通して、給養とて人々をたむるなりと云ふ、されども續紀  
上此郡分とれしよし、何れ故なりと記され、然バ、今辨へが  
多し、とぞ一、我中、此れとを郡一の給くらしんふハ、小北  
おとふりあり、然バ、暫く其の乃く、先づとあるるるるふ  
、何れもみえ、然バ、給羊の義ハ、今もこゝ事たりぬ、地を益  
穿らるゝ説をたむるバ、負軒が伝のよし、半の字ハ、點畫を益  
し、たつとあるるるる、何れをたむるバ、養養、辛辛、損益とら  
とれ、唐人の筆もみえ、然バ、羊羊の換置も、たつとあるるる  
定免、うけり、いふも成給半と云ふ、て、續紀の意ハ、たがへ  
ふ似  
しり、

⑥平田寺勅書、弘福寺僧綱所務、醍醐寺封戸、醍醐寺獻物  
帳のよし、古墨跡ハ、依史の爲とて、所をるべし、れども、其  
氣韻高尚あり、愛まると、一叙事の規式とら、し、捺印の制

度、これ唐人の爲とて、そのと符を合き、がぶとく、れおハ  
彼國ハ、準拠せし、一、端をさるるに、足らるる、さるりのら  
れ、齋檀の詩ハ、何とて、宋朝ハ、傳へ、り、二王の風  
ありと、稱讚とて、をい、是等の墨跡の傳へ、ら、た、らん、ふ  
い、り、より、何れも、い、定を、と、淳化宣和の秘府ハ、重護、封藏、せ、ら  
ま、ん、て、ハ、金虜の事、庭、ふ、ら、つ、失、れ、ん、もの、さ、ら、る、る、金、よ、り、或、ハ  
勅書あり、し、秘苑、愛、ま、る、と、輕率、ふ、と、ら、る、ふ、ち、り、ま、て、今、日、ハ  
つ、ら、ま、る、と、嚴、然、と、見、ぬ、と、ら、ハ、古、人、乃、賜、り、の、瞻、仰、と、て、  
さ、事、と、ら、る、と、れ、ハ、事、か、ら、る、と、近、世、の、好、ま、ね、ど、は、備、

ことハ外ハ古墨跡乃得がこまとのハ二行三行びて截断  
しく敬遠とていふもこれに類するも今まきをいふよかちん  
鑑賞家ハ黄紙紺紙金紙銀界の類ありとてつと宮太子の沖  
紙ハ本秦切とていふと唐隆寺に傳へていふ経を截断とて成  
るゝとこれハ紺紙金紙よりと塔の下繪ありゆゑとてまをた  
りありとて雲母地乃唐紙ハ書行しありとて白地扇地細  
字ありハ大織冠乃紙ハ赤地金紙書寫の經ありと多武峯切と  
てハ金唐草雲龍の下繪と紙ハかまきりあり白紙ハ金泥  
よとていふハつと紺紙銀泥あり聖武天皇乃御紙ハ紺紙

金泥赤紙ハ花さけりありと淡黄色紙ハ地黄紙あり光明  
皇后乃御紙ハ紺紙金泥金界の御本とてハ金界小草小鳥  
乃江繪あり紙ハ花さけりありと砂子地乃紙白紙淡黄色紙  
赤地ハ金銀赤小切箔を敷いたるありと蠟紙ハつと吉備大臣  
乃御紙ハ香紙とて紙ハつとこれありと虫喰切とてハ中將姫  
ハ黄紙ハ称讚浄土經をうとていふとていふとて此格とて  
つと尋ねるとこれハつとていふとていふとていふとていふと  
ふべとていふとていふとていふとていふとていふとていふと  
いふとていふとていふとていふとていふとていふとていふと

⑦畫乃古々との、法隆寺に傳くところ、太子真影に過るは  
 大國忌寸、栴堅部子齋僧曇微、白加、高麗師齋等乃画師、  
 書紀小々たるは、今の在り、その名々々々、  
 是百濟國阿依太子乃筆なりと傳へり、  
 獨我國人の寶とするにあり、次、緝熙睿思の殿  
 宇第一乃寶繪とて、金匱百重、緘藏とて、  
 寶蹟あり、ずや、嘗て其影抄本を購求し、得たり、縮寫して  
 出ると、冠劍衣服乃制、當時の容儀を直視とべし、  
 東土寺鴨毛余風乃繪、塔峯乃大織冠像、淡海公

上宮太子真像



信光縮寫

像、當麻曼陀羅、これ曼千歳以上なる古物あり、水火の災を  
 乃が終、今も傳くまゝなる物あり、それより降つて、八金岡相覽  
 帝嗣飛鳥部、公忠等が筆ハ、稀くよき傳くもの、僅く繪所の  
 くる乃筆蹟あり、まきまれば、これより終つて、藤貞幹、余と  
 同く癖あり、畫卷の目を掲鈔し、好古の才人弘くあり、さ  
 持び、たがひなく、物ごとく、これより終つて、余が見し所を奉る  
 春日社、飭馬、三修院の時時入、画一、児觀音縁起、  
 明真言、詞、為重卿画、位、小柴垣、為家卿、書画、同異本、豊後、光明寺十  
 曼陀羅、慶恩、法眼、六波羅行幸、常盤の卷、二つと、保元平  
 治の零本あり、時秋

繪詞、為家卿、妙安寺太子傳、任吉、慶恩、窪田藤兵衛尉統春  
天文、中、道成寺、一ハ、應永年中の画、将門合戦、  
 乃人、  
 の繪、結城合戦乃繪、  
 予御所の軍、  
 餓鬼手紙、  
 光顯々本筆の欣伝、  
 宰府縁起、十二幅の懸物あり、北、釋奠繪、三通、文安即位、並在柄と大上異あり  
 調度圖、  
 惠心僧都法詞、  
 長門國阿弥陀寺障子  
 繪、  
 報恩寺淨妙筆、親鸞聖人繪、ま乃外行多かるべし  
 又詞乃傳くもの、繪の教述するものあり、敬歸繪詞、暮歸繪  
 詞、拾遺古徳傳、賴印僧正繪詞、牛若物語あり、画の傳くもの、

詞を失きりあり、産屋の後、病の予候乃強訣、地獄の信、陸  
 忠、終、入、り、く、他、ま、る、あ、る、い、ハ、今、の、人、の、筆、よ、く、古、く、画  
 此、が、お、と、く、勢、一、物、り、り、栗、田、真、人、入、唐、音、是、ハ、吉、備、入、唐、  
信、西、粟、國、と、の、人  
 此、の、よ、や、と、成、い、へ、る、淡、海、公、乃、像、入、母、と、  
信、ま、る、も、の、な、り、、此、類、ハ、あ  
 ら、ね、ど、雪、舟、が、明、朝、風、俗、乃、畫、こ、と、い、お、り、し、る、と、の、お、り、  
 ①、梓、刻、の、ま、と、ハ、稱、德、天、皇、の、百、萬、塔、入、籠、ら、ま、り、経、よ、と、ま、  
 ま、り、ハ、お、り、ま、湯、山、永、延、二、年、三、月、沙、門、延、壽、記、云、永、觀、元  
 年、癸、未、唐、國、本、朝、摺、本、寫、本、經、編、人、師、述、他、合、東、八、千、餘、秩、納、  
 少、あり、永、觀、ハ、北、宋、の、七、年、興、國、八、年、入、あ、れ、ハ、お、り、唐、本

こと、ハ、北、宋、本、を、り、る、く、本、朝、乃、摺、本、も、あ、り、ま、る、と、い、は、  
 け、こ、ハ、寶、龜、板、入、し、び、ぶ、と、ま、と、を、れ、ま、る、一、冊、云、濫、觴、抄、入、摺、本  
一、切、經、寬、和、丁、亥、の  
年、喬、抄、法、何、々、將、來、と、い、ひ、ま、る、と、い、ふ、永、觀、乃、時、  
唐、本、の、摺、本、と、あ、る、は、喬、抄、よ、り、も、未、入、ま、り、ぬ、べ、し、其、後、摺、本  
 の、事、台、記、入、見、く、ま、れ、ど、北、宋、板、の、書、を、り、し、る、と、い、は、  
 繡、板、よ、り、や、也、く、傳、り、し、る、に、い、は、ま、る、と、い、は、  
 法、花、と、人、選、擇、集、を、り、べ、し、是、土、御、門、院、乃、御、時、入、刻、と、い、は、  
 平、基、親、乃、序、入、い、へ、ら、れ、り、是、よ、次、ぐ、ハ、建、保、二、年、明、信、比、丘  
 が、觀、無、量、壽、經、を、自、寫、重、刊、と、い、は、  
明、信、が、本、は、い、ま、り、ぬ、と、い、は、  
正、安、四、年、覆、刻、本、入、本、印、奥  
記、云、校、合、倭、漢、數、本、勘、定、釋、義、意、趣、文、字、之、有、無、必、第、之、上、下、  
并、點、画、關、行、等、取、捨、是、非、若、有、難、辨、者、就、多、本、用、之、所、以、恐、錯





傳ハ、平養親が著し所とす、兼安乃奥書ある  
本あり、其親より出づるはこれなり、その他種  
種あり、第一疑を致す、このハ、諸傳に、御年五  
十とあり、繪傳とあり、  
五十五歳あり、志す、此ハ、書紀及帝紀補闕  
記等乃古と書入ハ、甲午又誕生あり、壬午薨あり、  
之在、ハ、御年四十九とあり、紹運録、皇年代記、  
此推古廿九年二月  
廿二日薨、四十  
九とあり、膳主人と同じ日薨とあり、此ハ、殊  
ハ、大ナリ、誤ナリ、法隆寺座釋迦銘文ハ、法興元在一年、歲次  
辛巳十二月鬼、前太后崩、明年正月廿二日、上宮法王枕病、弗  
愈于食、王后仍以勞疾、並著於床、時王后、王子等及與國臣深

懐愁、毒共相發、願仰依三寶、當造釋像、人寸五身、蒙此願力、轉  
病延壽、安住世間、若是定業、以背世者、往登淨土、早昇妙果、二  
月廿一日癸酉、王后即世、翌日法王登遐、癸未年三月中、如願  
欲造釋迦尊像、并使侍及在嚴具、竟乘斯微福、信通知識、現在  
安穩、出生入死、隨奉三主、紹隆三寶、遂共彼岸、普遍六道、法界  
含識、得脫苦緣、同報善提、使司馬鞍首止利佛師造、ハ、何ハ、帝  
說、此文を載、秋曰、今依此銘文、應言壬午年正月廿二日  
聖王枕病也、即同時膳主人自持勞也、大刀自持者、二月廿一日  
卒也、聖王、廿二日薨也、是以明知、膳主人先日卒也、聖王後日



金光

以文庫本ハ前山ハあり、足利本ハ上校安房守憲實、その子  
右京亮憲忠、その子五郎憲房、父子二世心をほくく、愛護  
寶藏せしむる、其後史ハ、或ハ宋板、或ハ古鈔本、此  
奇世の孤卷秘冊なり、中入り、宋浙江板、周易註疏十三冊、即  
憲子通分傳標本あり、憲忠が寄進するものなり、嘗て此本を  
類し、卷あり、上校右京亮藤原憲忠寄進と書し、押字あり、其  
次、山陵子通乃親字あり、第一乃末、其月二十一日、陸子通  
三山東窓傳標、第二、瑞平改元を十二月廿三日、陸子通三山  
寫易、東窓傳標、第三、廿四日、子通標、關于三山、寫易、東窓、第四  
入、甲午歲未、廿五日、子通東窓傳標、第五、甲午十二月癸巳、  
子通三山東窓傳標、第六、瑞平甲午歲餘日、三山東窓子通  
標、第七、乙未天基節、三山東窓子通傳標、第八、乙未開歲、五  
日、子通三山東窓傳標、第九、瑞平乙未正月六日、陸子通、且

日光 法門  
日光 法門  
日光 法門

標于三山之東、號第十、乙未人曰、子通標、於三山東窓、第十一、  
乙未正月八日、子通三山東窓、第十三、瑞平二年正月十日、  
鏡陽嗣、陸子通、先君手標、以朱點傳之、時大雪始晴、謹記  
とあり、乙乃陸子通、陸務觀が渭南文集、跋入、嘉定十有三  
年、寅、幼子承事、郎知建、康府、溧陽縣、主管、勸農事、子通、謹書  
少あり、子通、陸放翁が幼子方、萬姓統譜、陸子通、山陰  
人、嘉定十二年、為溧陽令、溧陽俗、故武健、而信、漁祠、巫、現、有、白  
雲、宗者、以妖術、誘致、良民、轉相、憑、信、子通、至、興、學校、習、禮、讓  
釋、氏、之、秀、者、教、之、而、使、勸、化、其、愚、謂、諸、巫、曰、是、不、兩、立、有、我、無  
君、輩、乃、誅、鋤、其、魁、者、一、二、人、白、雲、宗、所、據、民、業、悉、歸、其、主、由、是  
縣、境、肅、然、習、俗、頓、革、迺、以、農、暇、治、溝、瀆、  
新、公、署、郵、傳、橋、路、皆、井、然、可、觀、とあり、  
宋紹熙刊本、禮記正義、  
七十卷、三十五冊あり、  
卷首入、孔穎達序あり、格頂入、此書不  
許出、學校、圖外、憲實、押と横書あり、其  
標、穎、八、禮記正義、卷第一、國子祭酒、上護軍、曲阜縣、開國子、臣  
孔穎達、撰、あり、諫弘、等、乃、字、闕、畫、とあり、每卷、足利學校之  
公用也、とあり、字を連書し、第二乃末入、上校安房守藤原憲實  
寄進、あり、此本、開卷、副葉の裏面、卅一冊の内と大書し、

左右入、摠三十五冊、豊之後、川、万壽寺僧一華書補之、と傍注  
一、又、乃、傍、貼、簽、入、郊、特、牲、内、則、玉、藻、正、義、此、三、篇、缺、本、經、自  
八、至、九、正、義、自、三、十、三、至、四、十、缺、と、記、し、く、松、竹、情、風、の、朱、印  
あり、知、る、時、ハ、此、禮、記、四、冊、缺、本、の、も、寄、進、し、後、僧、一、華、附、叙  
印、本、を、以、て、補、寫、し、り、其、寫、本、の、首、ハ、紫、府、豊、後、僧、一、華、  
學、士、於、武、川、勝、沼、以、印、本、合、書、寫、寄、進、一、度、校、合、年、と、あり、去、の  
本、曲、禮、曰、毋、不、敬、し、り、禮、聞、來、學、不、闕、往、教、と、し、り、を、一、卷、と  
し、道、德、仁、義、非、禮、不、成、し、り、詔、之、則、掩、口、而、對、し、り、を、第、二  
卷、と、し、此、本、陸、德、明、音、義、を、一、紹、熙、の、附、後、入、六、經、統、義、自、京  
監、蜀、本、皆、省、正、文、及、註、又、篇、章、教、亂、覽、者、病、烏、本、司、舊、刊、易、書  
周、禮、正、經、註、統、義、見、一、書、便、於、披、澤、它、經、獨、闕、紹、熙、幸、安、仲、冬  
唐、備、負、司、復、遂、取、毛、詩、禮、記、統、義、如、前、三、經、編、彙、精、加、離、正、用  
錢、諸、本、庶、廣、前、人、之、所、未、備、乃、若、春、秋、一、經、顧、力、未、暇、姑、以、點  
同、志、云、壬、子、秋、八、月、三、山、黃、唐、謹、識、進、士、傅、伯、庸、進、士、陳、克、已  
應、賢、良、方、正、直、言、極、諫、科、在、冷、修、議、即、紹、興、有、會、稽、縣、主、簿、高  
似、孫、修、議、即、監、紹、興、有、三、江、錢、清、曹、城、監、揚、管、場、袋、監、李、日、叢  
迪、功、郎、充、紹、興、有、府、學、教、授、陳、自、強、文、林、郎、前、台、州、二、學、教、授  
張、澤、後、事、郎、西、浙、東、路、安、撫、司、幹、辦、公、事、留、駿、校、正、官、宣、教、郎

西、浙、東、路、提、舉、常、平、司、幹、辦、公、事、李、深、通、直、郎、西、浙、東、路、提、舉、  
茶、鹽、司、幹、辦、公、事、王、汾、朝、請、郎、提、舉、西、浙、東、路、常、平、茶、鹽、公、事  
黃、唐、と、あり、黃、唐、宋、史、入、み、く、と、三、山、志、入、淳、熙、四、年、車、駕、幸  
大、學、上、舍、釋、褐、黃、唐、字、信、厚、閩、清、人、授、承、務、郎、大、學、錄、と、あり、  
又、萬、姓、統、譜、入、ハ、黃、唐、字、雍、甫、福、州、人、寧、宗、朝、為、考、功、郎、中、時  
韓、侂、胄、為、父、誡、陳、乞、伯、益、唐、為、覆、藏、乃、見、宰、相、京、鏗、言、不、能、奉  
承、因、求、去、と、あり、此、と、同、人、の、如、る、也、一、宋、板、影、鈔、本、禮、記、六、十、三  
卷、是、ハ、附、釋、音、本、也、毛、詩、註、疏、三、十、冊、詩、經、存、未、入、大、荒  
那、板、清、板、乃、原、書、也、毛、詩、註、疏、三、十、冊、洛、歲、晚、夏、小、盡、日、  
灯、下、一、看、絕、句、春、秋、左、傳、註、疏、二、十、五、冊、詩、と、左、傳、と、附、釋、音、  
註、藤、岳、と、あり、謂、南、宋、本、也、且、禮、詩、左、傳、每、本、の、格、頂、入、  
是、利、學、校、之、公、用、也、此、書、不、許、出、學、校、外、上、校、安、房、守、藤、原  
憲、實、寄、進、と、あり、標、紙、入、松、竹、情、風、乃、  
印、あり、即、知、表、背、と、あり、當、時、の、者、也、南、宋、本、尚、書、正、義、八、冊、  
同、時、乃、板、本、也、卷、首、入、端、拱、元、年、孔、維、等、上、表、あり、次、  
永、徽、四、年、長、孫、無、忌、乃、上、表、あり、今、乃、板、古、用、本、也、此、二、表、也、



本宅詩十冊、鄭美、卷末入、下野州足利學校常任、洛之相國卜  
後二日、董希秩子叟寒松、野釋龍仙、禪珠誌とあり、又一通、八冊、南宋本禮記集說、五冊、  
延徳二年壬午五月廿二日、建仁寺大龍庵一牛藏主寄、能化  
肥後之産天矣誌、まゝ學校常任本、陳皓本、奥書云、延徳二年  
五月廿二日、建仁寺大龍庵一牛藏主寄、至徳二年六月十  
一日、以五系大外記家本、寫點了、永和三年五月二日、以此本  
年也、葉裏、御讀、訛、清原良賢、天文廿四年勅之、百七十四、宋板  
春秋古氏傳十冊、卷首入、足利學校正傳院常任と徳し、末入  
識文あり、嘉定八、宋寧宗乃時の年、寫本孔子家語二冊、永正  
号、色ハ、去レ刊板の時、ちる、る、寫本論語集解五冊、國  
仲春日、寄進藤原、憲實押とあり、寫本古文孝經一冊、寫本論語集解五冊、國  
經と類し、まゝハ、輒輯、まゝハ、度、推、衡、れ、論語乃美名を、五  
心乃僧徒の筆、まゝハ、類し、まゝハ、再入、論語を、余、殊、徑、と、入、

本朝文粹、入、康保三年夏、右親衛將軍招、藤原藤學士、初讀  
魯論、云、俗人未必覺知、以爲論語、者、初學、之書也、不足施  
晚學、不知其先聖、微言、圓通、如明珠之義、源順が文、入、見、之、  
り、それより後、義經記、入、出、り、その乃圓珠と名附たる義、  
梁皇侃が義疏の序、入、故言論語、少、而、圓通、有、如、明珠、云、  
あり、取り取、り、あり、と、羣書一覽、入、鄭玄疏を引、く、一、る、り、  
あり、又、六藝、喉、符、と、題、し、古、寫、本、あり、その書、  
云、行、十、三、字、經、注、と、し、お、れ、所、謂、摺、折、本、なり、寫、本、白、文、魯  
論一冊、寫、本、論、語、義、疏、十冊、首、入、夷、文、庫、鈔、本、註、孟子、七冊、  
卷末入、于時長享二年臘月日、書、文公家礼纂互集註、一冊、卷  
之、志、奥、州、天、輔、置、鳥、と、あり、武州児玉黨、吾那武部少輔寄進、永正二年丙  
寅八月日、野州足利學校、能化九天誌とあり、史記十五冊、  
豐城、滋、明、大、昇、校、正、新、増、と、あり、集、解、正、統、本、後、漢、書、二十冊、  
正義、索、隱、乃、序、あり、十四行、二十五字、  
首、入、此、書、不、許、出、學、校、外、文、選、李、善、五、臣、註、二十一冊、每冊  
上、枚、五、郎、憲、房、寄、進、と、あり、



柳菴隨筆初編 終

攝門初以為知己易得。古人謂  
千歲旦暮何其言之迂也。何則  
不辨菽麥者與畫墁毀瓦者。措而  
不論苟涉獵于文苑者。皆是知己。  
我言是彼亦領。安為用子歲雜  
得哉。然亦以為有張陳。有呂郭。  
管華。意趣之不同。終為仇讐。交  
不可不擇也。友不可容易也。漸

深察知己。難得者何謂。熟思古人  
執友之誼。倍疑往來者。相責而  
尊。嗇乎。抑莽居士。我歷世之通  
家。假令意趣相背。不亦可相棄。  
而意趣亦相與余相同。嘗數其  
所業。書畫與文章。子夫為政。釋  
典與閑禪。我似有一日之長也。每  
相言以拍掌。居士慙。適余為緣山

志。余誘引居士。為隨筆。二者同  
意而為之。同時而梓之。居士序  
山志。予題隨筆。二書之周旋。若是  
相同。則所謂真知己也。而予在南  
芝。居士居菰東。相去僅挾一江城  
耳。安為用。子。里比肩哉。不亦大快  
事邪。

文政二年歲次己卯。首夏上澣

釋攝門書于緣山北溪在心室。

業讀者又人場之知道物品所附其常叶  
子者孝心思巨者忠其持恩謀為道亨  
能知事味了明至善之度石利也

金昆羅大權現  
受道神道佛道

文政三年庚辰九月發行

東都書肆

崇宗文堂

東都書肆

崇宗文堂

前川六左衛門



